

中島由夫、福島千佳、国松飛龍

「偶然の法則に従って、今、ここに。」

会期: 2023年3月9日(木)-3月27日(月)

開館時間: 木金土日月(火水祝休) 13:00-18:00

(上記以外の時間でビューイングをご希望の方はご予約にて承ります。)

オープニングレセプション: 2023年3月12日(日) 16:00-18:00

エステルオカダアートギャラリーでは、2023年3月9日(木)から3月27日(月)まで、中島由夫、福島千佳、国松飛龍の3名のペインターによる展示、「偶然の法則に従って、今、ここに。」を開催いたします。



(画像:ダンカー文化センター(ヘルシンボリ、スウェーデン)での共同制作風景)、2022年11月

【展示概要】 1940年、埼玉県で生まれた中島由夫は、60年代に日本を飛び出して以降、ヨーロッパを拠点に国際的な活躍を続けている。50年代後半からダダカン(糸井貫二)らと共に国内の前衛運動に身を投じてきた彼は、欧州においてもプロヴォ、シチュアショニスト・インターナショナル、パウハウス・シチュアショニスト、コブラ

など、様々な芸術運動に関わり、ギャラリーや美術館などに象徴されるシステムに囚われることなく、路上でパフォーマンスを行い、行く先々の街を舞台に市民を観客とし、危険を犯してでも芸術の力を提示し続けてきた作家である。

中島が拠点とするスウェーデンのヘルシンボリにあるアトリエでは、年に数名、アーティスト・イン・レジデンスの形式で日本から若手作家を招き入れているが、そのプログラムに参加した福島千佳と国松飛龍を招き、エステルオカダアートギャラリーは、この度共同制作の場を提供する。未公開作品の発表に加え、公開制作を行うほか、会期中にはアーティストトークやパフォーマンスなども度々企画する予定である。

福島千佳は、中島同様、凄まじいエネルギーと独自の感性を武器に描き続ける作家である。福島スタイルで特徴的なのは、筆記体文字の様にも見える細くうねる線や、制作過程で飛び散った絵具などに見られる、偶然性を生かした大胆なタッチだ。彼女は、描くという行為をキャンパスのみならず、洋服や器など彼女の周囲にある様々な物に対して行なう。そこに描かずにはいられないという彼女の強烈なエネルギーに観客は衝撃を受けるであろう。若い日の中島は来日していたジョルジュ・マチューのライブペインティングを目の当たりにし、強い興奮を覚えたという。福島の流動的且つ力強いペインティングは、どこか中島が大きく影響を受けた世界と通ずるものを感じさせる。

国松飛龍もまた、迸るエネルギーに駆り立てられ、自由で大胆な制作活動を行っているユニークな作家である。キャラクターが登場するポップで二次元的な作品を描くこともあれば、膨大な時間をかけ、インクによる細かい線を描き続けることもある。今回の展示では、キャンバスに緻密に描かれた果てしなく壮大な彼の世界感を垣間見ることができるはずだ。昨年末にスウェーデンのダンカー文化センターで行われた中島由夫の個展では、中島と共同でライブペインティングのパフォーマンスを行い、部屋全体をキャンバスに見立てたダイナミックな作品を作り上げた。

偶然にも彼らのエネルギーが重なり合った今、中島の言う、「精神をぶつけた芸術」が人々を巻き込み突き動かしていく様子を目撃することになるであろう。そして、中島が当時の仲間たちと掲げた“Art is always the next possibility.”というメッセージは、今、ここに、より一層求められている。

【本展示に関するお問い合わせ先】

エステルオカダアートギャラリー
東京都渋谷区代々木 5-24-10
www.zulaarts.com
EMAIL: esther@zulaarts.com
TEL: 03-4500-7231

【作家プロフィール】

中島由夫

1940年埼玉県深谷市生まれ。スウェーデンを拠点にして60年余り、多くのアーティストと共に様々な芸術運動に関わる。スウェーデン国立ヴァーランド芸術大学在学(1966-1972)、Skånska Konstakademien(自由創造国際大学)初代校長に就任(1977-1986)。終生のモチーフとなる「白夜の太陽」を描き、1978年、スウェーデン政府文化アカデミー賞を受賞。1989年ジョルジュ・ポンピドゥー国立芸術文化センター(パリ、フランス)にてアスガー・ヨルン(Asgar Jorn)賞を受賞。

福島千佳

鹿児島県生まれ。薩摩焼の上絵付け師の父の元で育つ。「絵は習うな、自分で学べ」という父の教えに沿って制作活動を続けている。2018年に中島由夫主催のアーティスト・イン・レジデンス(ヘルシンボリ、スウェーデン)に参加した後、制作発表の場を国外にも積極的に展開。主な個展に、Laboratorio Museo(2014年、フィレンツェ、イタリア)、ギャラリー島田(2018年、神戸)、Yoshio Nakajim Art Hall(2018年、ヘルシンボリ、スウェーデン)、China Weifang Culture & Art Fair(2019年、山東省、中国)、Yoshio Nakajim Art Hall(2019年、同上)、ギャラリー島田(2019年、神戸)、Gangneum Museum of Art「国際交流展」(2019年、江陵市、韓国)、ギャラリー枝香庵(2020年、東京)、ギャラリーConcept21(2021年、東京)、ギャラリー島田(2021年、神戸)、ギャラリー枝香庵(2022年、東京)、Gislaveds Konsthall(2023年9月予定、スウェーデン)など。2019年からは、CAPstudio(チェンマイ、タイ)にてエッチングの制作を開始。

国松飛龍

1988年兵庫県生まれ。武蔵野美術大学油絵科版画コースにてスクリーンプリントを学ぶ。芸能関係事務所でイラストレーターとしての仕事を開始、その後デザイン事務所などを経て、2022年に中島由夫主催のアーティスト・イン・レジデンス(ヘルシンボリ、スウェーデン)に参加。2022年秋にダンカー文化センター/Dunkers Kulturhus(ヘルシンボリ、スウェーデン)で開催された中島由夫「Travel with the Sun」展では、中島由夫と共同で公開制作及びパフォーマンスを行なうなど、国内外で積極的に制作、発表を行っている。

【エステルオカダアートギャラリーへのアクセス】

東京都渋谷区代々木 5-24-10 / 電話 03-4500-7231

最寄り駅: 小田急線参宮橋駅(徒歩 7分)、代々木八幡駅(徒歩 12分)、東京メトロ千代田線代々木公園駅(徒歩 12分)

バス: 宿 51(京王バス)新宿駅・渋谷駅発着 「代々木5丁目」で下車(徒歩 3分)



MAP

